

## JCMA 報告

## ISO/TC 195/SC 1 及び ISO/TC 195/WG 7 国際会議 出張報告

標準部会

10月18日～20日の3日間、米国ミルウォーキーのホテル Residence Inn 内の会議室で開催された2件のISO国際会議（ISO/TC 195/SC 1（コンクリート施工機械及び装置）会議及びISO/TC 195/WG 7（手押し式締固め機械）会議）に出席したので、概要を報告する。

### 1. ISO/TC 195/SC 1 国際会議

まずはじめに、TC 195（Building construction machinery and equipment／建設用機械及び装置）は、建設機械のうちTC 127（Earth-moving machinery）の土工機械（ブルドーザ、油圧ショベルなど）、TC 214（Elevating work platforms）の昇降式作業台（高所作業車など）およびTC 96（Cranes）のクレーン（（社）日本クレーン協会所掌）を除いたすべての建設機械及び装置を扱うTC（Technical Committee／専門委員会）で、その下のSC 1は日本が幹事国を務め、コンクリート施工機械及び装置関係の規格を開発するSC（Sub Committee／分科委員会）で、今回は今年5月にポーランドのワルシャワで行われた年一度の国際会議で懸案となった下記推進中の3件のISO規格について協議するために、AEM（ミルウォーキーに本部を置く米国建設機械工業会）がホストを買って出してくれて開催されたものである。

今回は、P（積極参加）メンバー6ヶ国（日本、中国、韓国、米国、ドイツ、イギリス）から計15名の出席のもとで開催された。日本からは議長の大村氏、（財）日本規格協会からコーディネータの綾部氏、幹事の下名が出席した。



写真—1 SC 1会議

議事は大村議長の進行によって、下記討議を行った（写真—1参照）。

#### — ISO/DIS 18651.3（内部振動機）

Compaction diameter, Load testなどの規定について、主にポーランドとドイツの意見が対立し、第3次のDIS（Draft International Standard）まで進めてもまだ決着していない。今回は決着させるつもりで準備し会議に臨んだが、今度は今頃になって米国が数値データを含んだ規定は、技術の進歩に制約を与えるということで、多くの変更を主張し、第4次のDISを作成し、FDIS（Final DIS）またはそのまま発行出来るか否かの投票にかけるとした。

#### — ISO/DIS 21573-2（コンクリートポンプ—第2部：性能試験方法）

5月の国際会議でRotary pumpに関するデータも載せるべきとのことで、第2次のDIS案を作成して、会議で協議した結果、更にDouble roller pumpのデータも追加した第2次DISを作成し、投票にかけるとした。

#### —コンクリートポンプ等の安全要求事項

JIS A 8612をベースに日本が提案し、ドイツがコンビナー（WG幹事）を引き受けてくれ、進めることになっていた本規格は、5月の国際会議でドイツが辞退し、代わって米国がコンビナーとなって進めることになったが、各国の規格、法規制の差異等の事前調査にもう少し時間がかかるので、それら調査結果を見て、NWIP（New Work Item Proposal）にするかTR（Technical Report）にするかを判断することとなった。

今回は、来年5月に韓国ソウルでTC 195の親委員会の前に開催する予定である。また再来年2008年はポーランドのワルシャワでの開催が予定されている

が、今回参加の中国が開催に意欲的で、中国北京での開催を強く要望してきた。中国は、最近の機械産業の急成長も手伝って、非常に強気な姿勢が見られた。日本もこれを利用し、特に欧州に対して有利に進められるよう図ってゆきたい。なお、SC 1 (Sub Committee/分科委員会) は、昨年 8 月に WG 4 (Working Group/作業グループ) を格上げしたものである。

## 2. ISO/TC 195/WG 7 (手押し式締固め機械) 国際会議

この会議は上記 SC 1 会議の前日 17 日に開催された。

振動プレート及びランマのインパクトエネルギーの測定方法に関する規格を新業務項目提案 (NWIP) するのに先立ち、各国の意見をまとめるために開催され、概ね下記内容の討議がなされた。

現状の測定方法としては、LEMB (Light Equipment Manufacturers Bureau) が規定したボールを鉄板に押し付けてその凹みでエネルギー値を計算する方法があるが、複雑でコストもかかるとのことで、スウェーデンの Dynapac 社から提案されている機械に取り付けた加速度計で加速度を測ることによってエネルギー値を得る測定方法をベースに討議が行われたが、Wacker 社からのデータを用いての説明により、規格にするには、その測定方法による値のバラツキが大き過ぎることから、TR (テクニカルレポート) にとどめるべきとのコメントもあり、今後更に検討することとなった。

SC 1 最終日 20 日の会議が半日で終わったため、午後ホテルから車で 1 時間弱の所にある Putzmeister 社 (コンクリートポンプ車の最大手メーカー) の工場を見学するチャンスに恵まれた。工場は、ゆったりとした近代的オフィスと、物流という観点でみるとやや難のあるレイアウトではあったが、塗装を含め各工程の仕事が丁寧で、品質はさすがといった印象をもった。

最後に、会議の行われたミュンヘンは、ウイスコンシン州の南東、ミシガン湖の西岸に位置する、ドイツ系移民の多い人口約 63 万人の都市で、札幌とほぼ同



写真—2 ミルウォーキー美術館前

緯度の北緯 43 度、シカゴから車で 2 時間の所にある。街は静かで、清潔で整然とした街並みが印象的である。それと“ミュンヘン・札幌・ミルウォーキー”とどこかの CM に有ったように、ここミルウォーキーはビールの町。ダウンタウンと言われている場所も、買い物をするような店はショッピングモール以外にはほとんどないが、オフィス、銀行の間に、各店自慢のビールを売りにし、Brewery (醸造所) をもったレストランが点在し、ビール好きにはたまらない町である。

またここは美術館、博物館も多く、散歩がてらに立ち寄ったミシガン湖岸にあるミルウォーキー美術館には、ミルウォーキーへの観光客のシンボリック存在ともなっている、美術館が開館すると開き、閉館すると閉じる、開くと最大約 70 m にもなる、鳥が羽を広げたような美しいデザインの建造物を見ることができた。これはガラス張りの美術館のエントランスの日よけとして作られたものだとのこと (写真—2 参照)。次回は観光で来て、館内の展示物も是非ゆっくり観てみたいものである。

JCMA